

学術会議任命拒否

安倍政権時 排除伝達か

会員候補らの情報公開で判明

日本学術会議法は会議の推薦に基づいて曾相が会員を任命すると走っています。伝達があつたなど疑われる時点でも、同会議は会員候補を決定していませんでした。推薦前に官邸側が介入したのなら法令に違反する疑いがあります。

問題の文書は、この6人らが、拒否理由を記した文書の開示を国に求めた訴訟(20日提訴)の訴状で明らかになりました。文書には、日本学術会議法は個人のフルネームと専門分野、所属大学を記し、たゞ、「X」印がついていました。また20年6月12日の印を示すと考えられる、「R2、6、12」という手書きがありました。

訴状によると、この文書は「任命者側から日本学術会議事務局に、令和2年任命に向けた会員候補者の推薦に係る事項として伝達した」と原告側が説明しました。

原告側は、文書により同会議の会員候補決定以前に官邸側から同会議事務局に伝達があ

氏名	専道	京都大学大学院文学研究科教授
加藤 順子	史学・東京大学大学院人文社会系研究科教授	
岡田 正則	法学・早稲田大学教養法学部准教授	
小堀 遼一	法学・東京慈恵会医科大学医学部医学科教授	
松宮 幸明	法学・立命館大学大学院法務研究科教授	
宇野 直樹	政治学・東京大学社会科学研究所教授	

日本学術会議が会員候補105人を決定する

日本学術会議の会員候補6人を2020年9月に当時の曾相が任命拒否した問題で、前任の安倍晋三政権時の同年6月に官邸側が、この6人の名前にバツ印を付けた文書を学術会議事務局に伝達していたが20日、明らかになりました。

原田によると同年6月12日の時点で学術会議は曾相に推薦した会員候補105人を決定しておらず、官邸側は候補者が誰か知らないはずでした。ただ事務方である同会議事務局が同年4月以降に複数回、会員候補の資料などをもって官邸側と「相談」していくました。

R2、6、12

つたことが明らかになつたと指摘。「官邸が車大である」として会員候補者の選考過程に入れたことを裏付けます。当時、曾相は安倍晋三は安価な一部を除きほぼ不透明に。このため行政不服審査法に基づく審査請求をして、文書のうち

相のままで官房長官をしており、官邸などの人事に大きな影響力を持つていました。首相の時には衆院予算委員会(20年11月4日)で、「官房長官時代から学術会議にもさまざまな懸念を持っていた」と会議と注目していただけを明かしています。

原告側は拒否理由を記した文書を情報開示請求したもの、官邸側は一部を除きほぼ不透明に。このため行政不服審査法に基づく審査請求をして、文書のうち

一部につづいて開示すべく、今回の文書が明り出しの審査が出来たのです。